

# I. 調査要領

## 1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 24 年 10 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 24 年 7 月～9 月期の実績および平成 24 年 10 月～12 月期の見通しについて調査した。

## 2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

## 3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	16 社	53.3%
水産業部会	30 社	16 社	53.3%
機械工業部会	30 社	18 社	60.0%
建設業部会	30 社	19 社	63.3%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	21 社	70.0%
合 計	150 社	90 件	60.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

## Ⅱ. 概況

－業況は前期よりやや改善、次期は悪化の見込み－

### 1. 全体の動き(業況)

四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成24年7月～9月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比△26.6**と前回調査時の△27.2より**0.6ポイント改善**しました。グラフを見るとここまで右上がりの傾向となっており、業況が徐々に改善してきたことが窺えます。また、各業種の各業況値を鑑みますと、主にこれから収穫最盛期を迎える水産業が業況改善していますが、商業・食品業が-50前後の水準であり、他の業種もマイナス傾向が続いております。市内経済を取り巻く経営環境は依然としてやや厳しい状況が続いていると見受けられます。

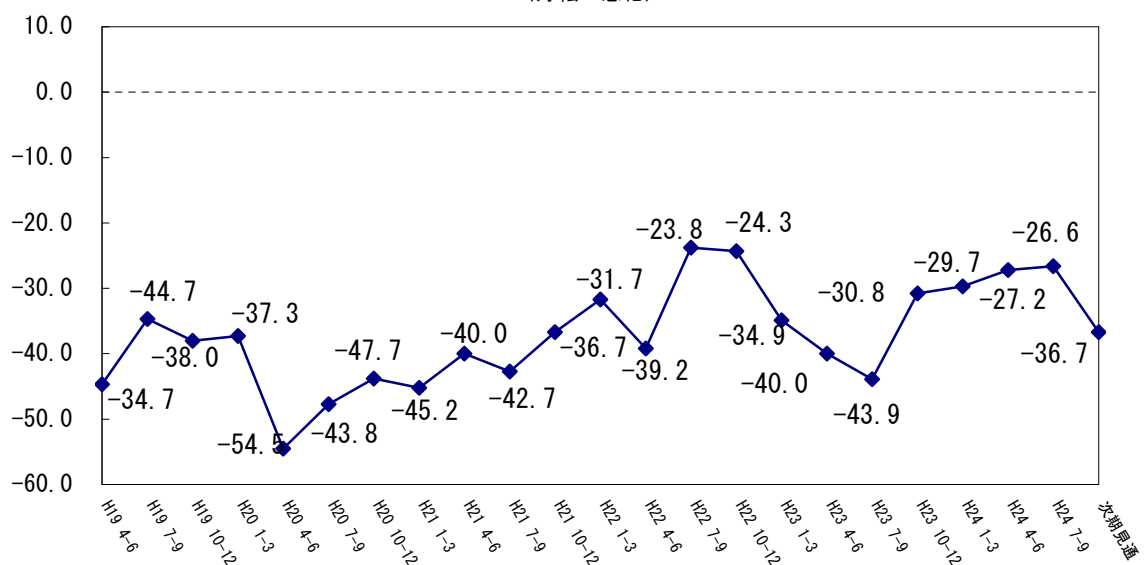
部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前年DI値△52.6→今期△50.0]、水産業[前年DI値△31.3→今期12.5]、機械工業[前年DI値△66.7→今期△27.8]、建設業[前年DI値△38.9→今期△26.3]、観光・サービス諸業[前年DI値△27.8→今期△38.1]となりました。水産業は漁の最盛期を迎え、ホタテ、秋鮭共に漁獲量が順調に推移し、秋鮭の売上は前年よりも魚価が上がらなかったにもかかわらず、売上高が好調だった前年よりも増加しました。10月後半以降はイカの水揚げに期待できるため、次期見通しは少なからず良い結果が出るものと思われませんが、魚価が高いと水産加工場は原価高騰で反面業績が厳しくなることを懸念しています。建設業は繁忙期に入っていますが、業況は減少で推移しています。商業・食品業は売上が伸びず、業況は全く改善していません。また、機械工業は前年よりは改善の数字ではありますが、全体的にはあまり良い業況ではありません。観光・サービス諸業においては、前年よりも厳しい数字が続いており、さえない状況となっています。景気悪化で全体的に意見が少なくなっている傾向にあると思われれます。

**来期(平成24年10月～12月)**については、今期と比べて**業況判断DIは、悪化傾向になる**との見通しが寄せられ、特に全体的なDI悪化の影響を直接受ける商業・食品業および観光・サービス業、諸業においては、これから繁忙期を迎える年末に向けての業況回復の期待を持ちたいところですが、消費者の財布のひもが固いうちは、苦しい状況が続くとの見方となっています。業種の中でも唯一水産業だけが見通しが良い判断で動いておりますが、こちらは最後の追い込みのホタテ・サケ・イカの水揚げが順調なことからそのような動きになるものと見ています。

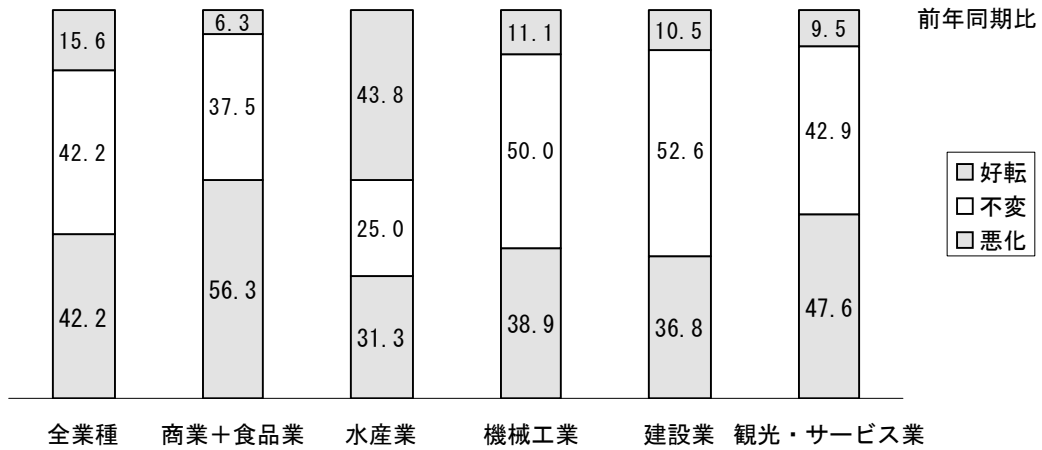
## 業況推移

(全業種平均D・I)

(好転－悪化)



## 今期の業況（前年同期比）



### ■部会別の動向

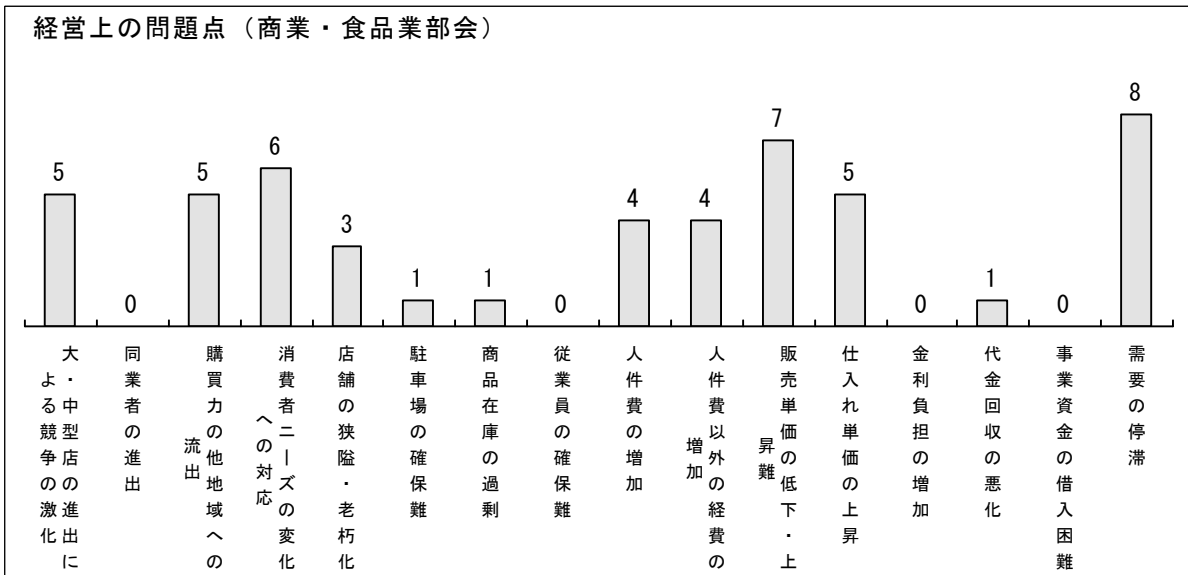
**【商業・食品業部会】**〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 50.0$ （前年DI値 $\Delta 52.6$ 、来期見通し $\Delta 56.3$ ）〕

業況DI値（前年同期比）は、夏場の商戦時期にもかかわらず大きくマイナス値となり厳しい状況で、前期の業況次期見通しは $\Delta 45.0$ と予想していましたが、さらに指数悪化となってしまいました。景気の悪さや今後の不安定な経済に対して見通しがつかないため、消費者の財布のひもは固く、消費マインドの回復は見えません。次期の見通しについては、年末商戦に向け回復を期待したいところです。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」「販売単価の低下・上昇難」「消費者ニーズの変化への対応」を訴える声が多く寄せられています。

#### 《業界の問題点等》

- ・TVショッピング等にかなり客をうばわれているのではないかと（小売）
- ・メーカー、流通の合理化のため、人員削減で取引の停止（取引高、額の減少のため）大型量販店へのシフトによる。（小売）
- ・消費税増税、タバコ値上げあれば影響受ける（小売）

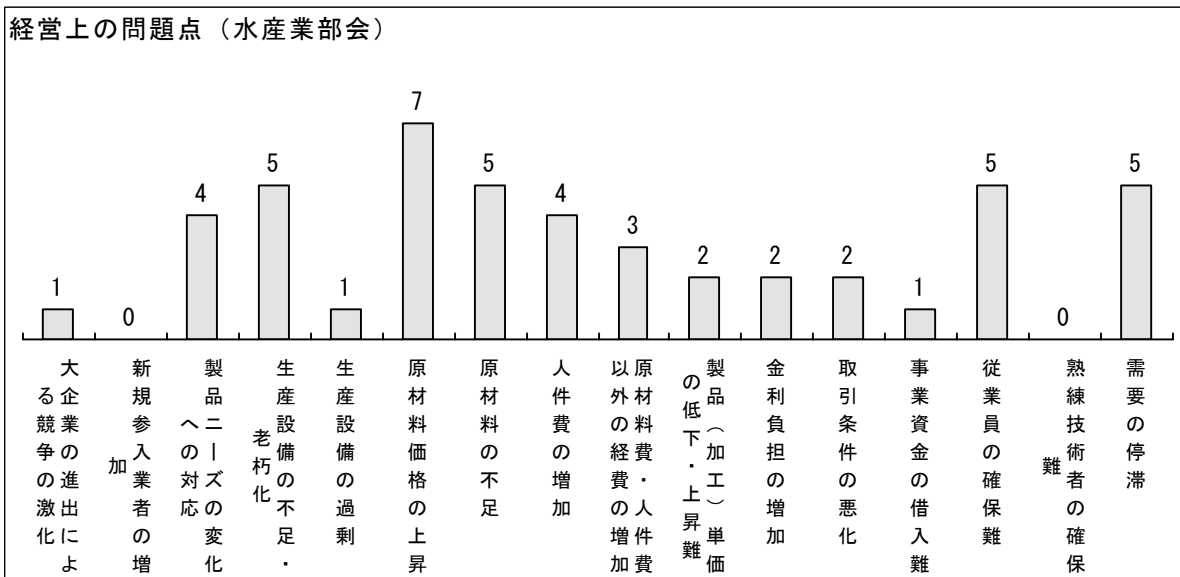


**【水産業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）12.5（前年DI値△31.3、来期見通し△12.5）]

業況判断DI値（前年同期比）は前期よりも水揚げが本格化したため改善しています。今期の水産業界については、カニの輸入量が前年よりも回復してきており、昨年と比べると良い状況となっています。またホタテは貝毒も出ず順調とのことです。サケの水揚げについては、昨年よりも10%ほど水揚げが増えており、魚価もそこそ高いため売上高は良いと聞いております。また、10月に入ってから昨年を引き続きスルメイカが豊漁で、水産加工業者は冷凍保存（品薄時期に販売）したり、少しでも厳しい局面を穴埋めできるようにと工夫しており、冬を前にして最盛期を迎える今後の回復はやや期待され、来期については大きな変化はないとの見通しを立てております。しかし、水産加工業者はサケ等の魚価が高いため原魚の仕入れ金額増となる中、売上金額は昨年同様と、差し引きすると経営内容は悪いと聞いております。経営上の問題点としては、「原材料価格の上昇」「原材料の不足」等となっております。

**《業界の問題点等》**

- ・ 原材料、資材の値上げの傾向にあり、又、消費税のアップが不安材料であり、実施されれば対応出来ない。（水産加工）
- ・ 社会保険、税金の負担上昇。電力使用量の削減はコスト削減、環境問題にもリンクし、今後必要と考えられるが、不況の中、計画停電を実施する事で経営存続の問題に関わる所が多いのではないかと思います。一部の会社だけではなく、市や団体がもっと一丸となり、活性する方法を真剣に取り組まなければならないと思います。（水産加工）



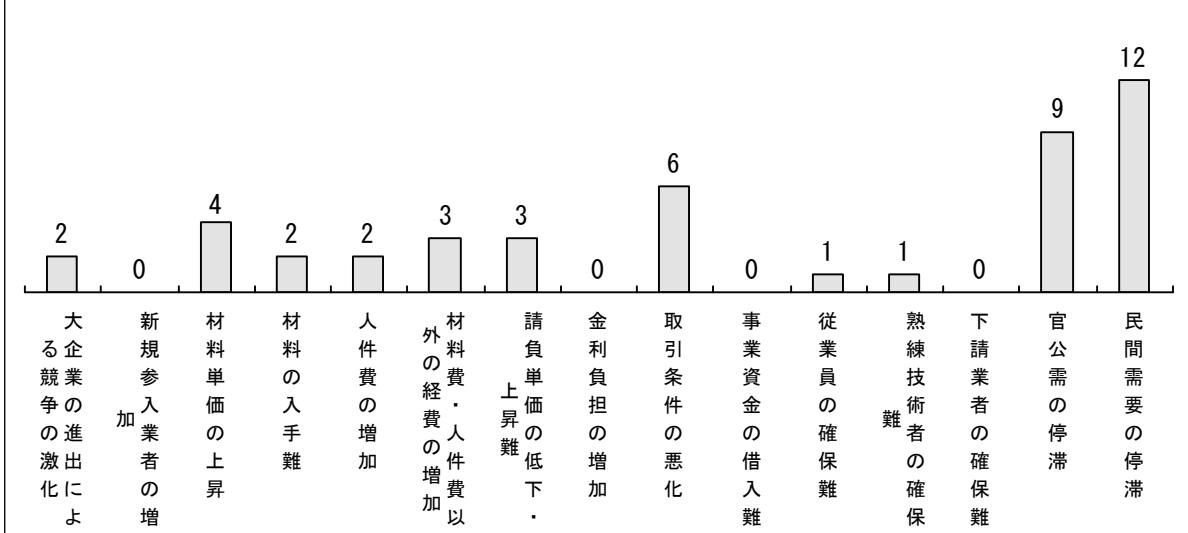
**【機械・工業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△27.8（前年DI値△66.7、来期見通し△27.8）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値に比べると改善傾向ではあるが、昨年の大震災直後の状況との比較なのでDI値が改善されたのではないかと思います。エコカー補助金の終了が年度内までに消化できない状況となっていることもあり、自動車業界は全体的に経営内容が安定していると聞きます。次期の見通しについては、今期とほぼ同じDI値-27.8。経営上の問題点として、「民間需要の停滞」や「官公需の停滞」、「取引条件の悪化」を訴える声が多く寄せられている。

**《業界の問題点等》**

- ・ 輸入前との価格競争（木材製造業）
- ・ さらなるペーパーレス化（印刷業）
- ・ 地域の住宅着工数が減少する中で大手ハウスメーカーまでローカル地域に参入しており、競争の激化は避けられない厳しさです。（木材製造業）

経営上の問題点（機械・工業部会）



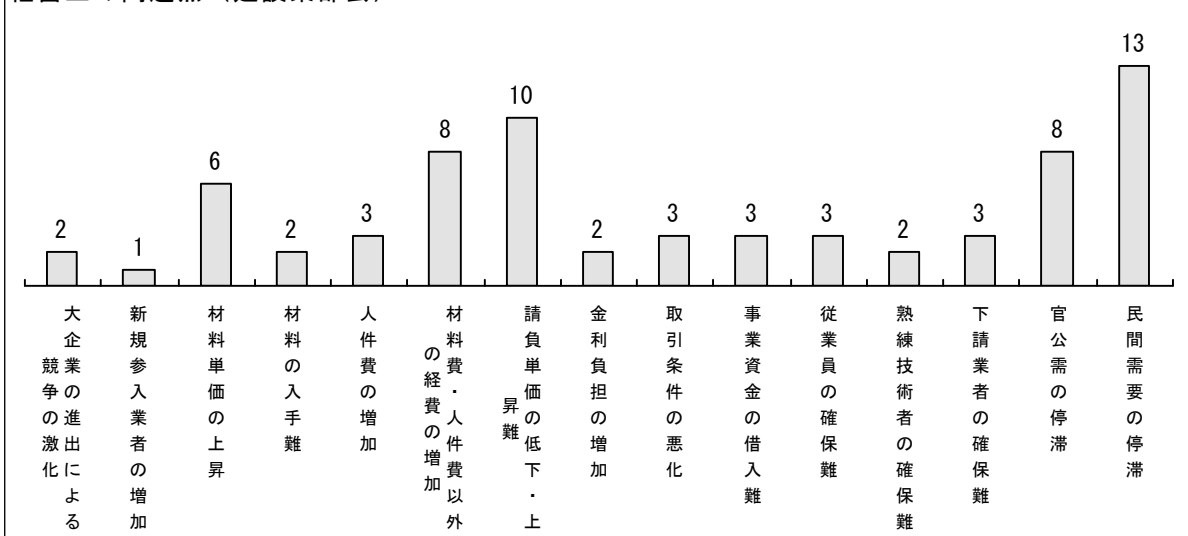
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△26.3（前年DI値△17.6、来期見通し△15.8）〕

業況判断DI値（前年同期比）は夏の繁忙期を迎えています。前年よりやや悪化した状況となっています。しかしながら来期への見通しはやや改善傾向と、冬を前にあまり回復しない状況は続いていきます。また、公共事業の減少は非常に大きく経営にのしかかっているとの声も聞かれます。経営上の問題点としては、「民間・官公需の停滞」「請負単価の低下・上昇難」、「官公需の停滞」などを訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・ 来年3月末で終了の円滑化法についての得意先の与信管理（建設）
- ・ 建築関係は、職人を育てる必要がある、紋別市でも若い人を育てることをもっとやった方がいい。大工さんなど、若い人がいません！地方の業者が住宅建設に入ってくるのも仕方ないと思う。（土木建築）
- ・ 新規事業参入に伴い経費の増加。地元業者に依る新築工事減少。今後の消費税増での駆け込みに期待。（電気工事）

経営上の問題点（建設業部会）



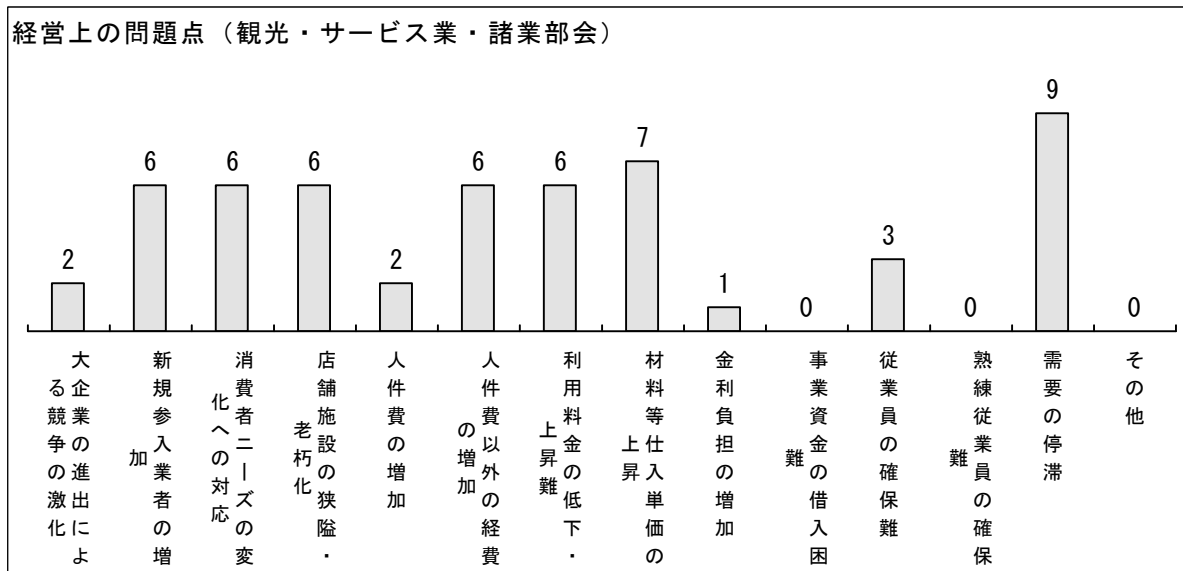
**【観光・サービス業、諸業部会】** [業況判断DI値（前年同期比）△38.1（前年DI値△27.8、来期見通し△66.7）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前年DI値に比べるとやや悪化となっております。来期は年末にむけて回復したいところですが、昨年同様、見通しはさらに悪化するとみております。飲食業界からは、売上は落ちていないが、月によってお客さんが来たり来なかったりと、波がとても激しいので全体的に悪い状況と感じているが、数字的には売上横ばいという状況との声も聞いております。

経営上の問題点としては、「需要の停滞」、「材料仕入れ単価の上昇」等という声が多く寄せられています。

**《業界の問題点等》**

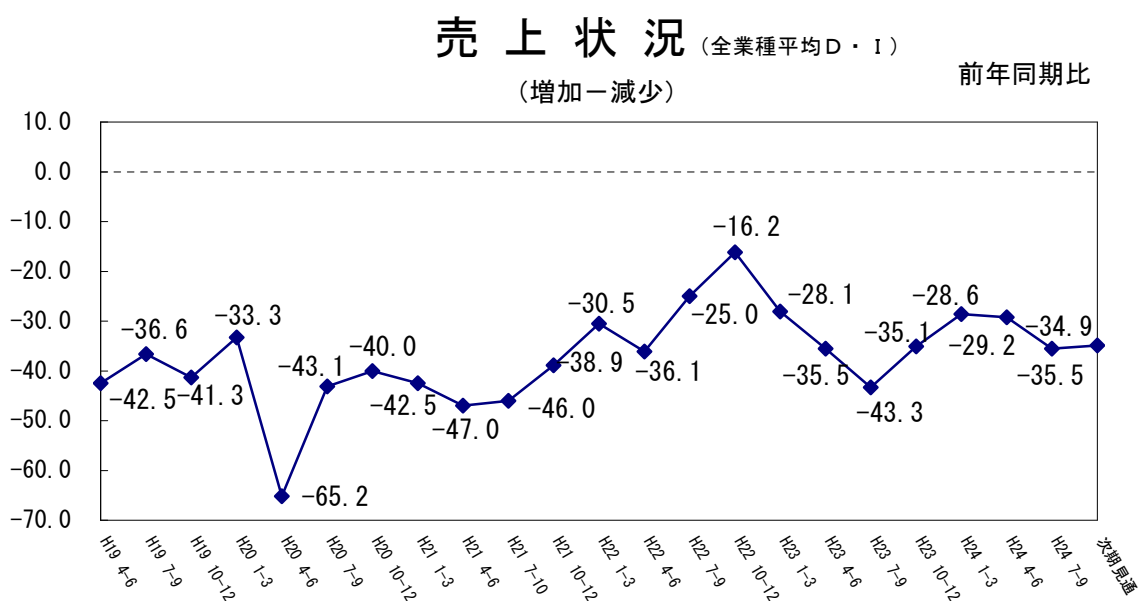
- ・ 来客時刻の多様及び深夜化、注文される品数の多様化（バラバラ）に対応がしづらい。（飲食）
- ・ 原材料の値上げ、消費者の儉約志向。（飲食）
- ・ 石油燃料の値段高騰（飲食業）
- ・ 消費意欲の減退（サービス業）
- ・ 観光客さま相手の商売してませんが札幌、小樽、函館の様に通年（端末期）なしの何か大きな目玉を紋別をPRして通年観光客さま来紋を望みます。（飲食）
- ・ 人口減少（サービス）



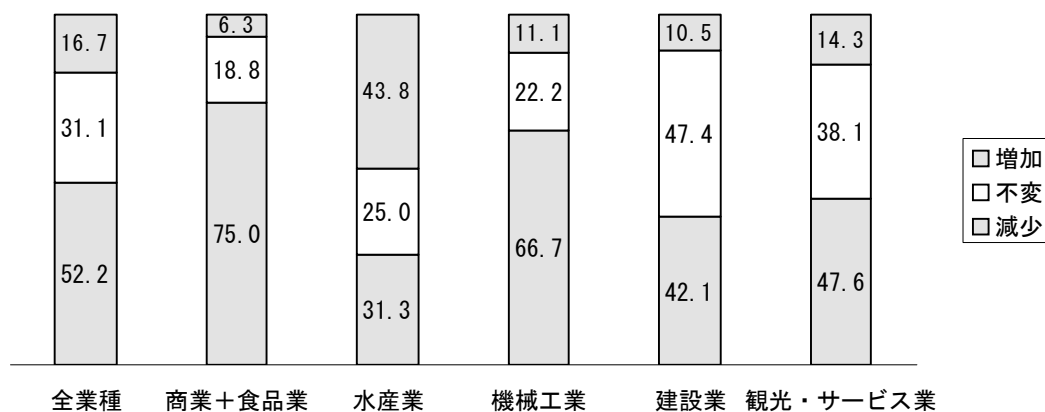
## 2. 今期の動向

### (1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の売上高）



### 今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値  $\Delta 35.5$  [前年調査時（平成 23 年 7～9 月期  $\Delta 43.3$ ）より 7.8 ポイント改善]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年  $\Delta 21.1 \rightarrow \Delta 68.8$ ]、水産業 [前年  $\Delta 23.5 \rightarrow \Delta 12.5$ ]  
 機械工業 [前年  $\Delta 61.1 \rightarrow \Delta 55.6$ ]、建設業 [前年  $\Delta 66.7 \rightarrow \Delta 31.6$ ]  
 観光・サービス業 [前年  $\Delta 44.4 \rightarrow \Delta 33.3$ ]

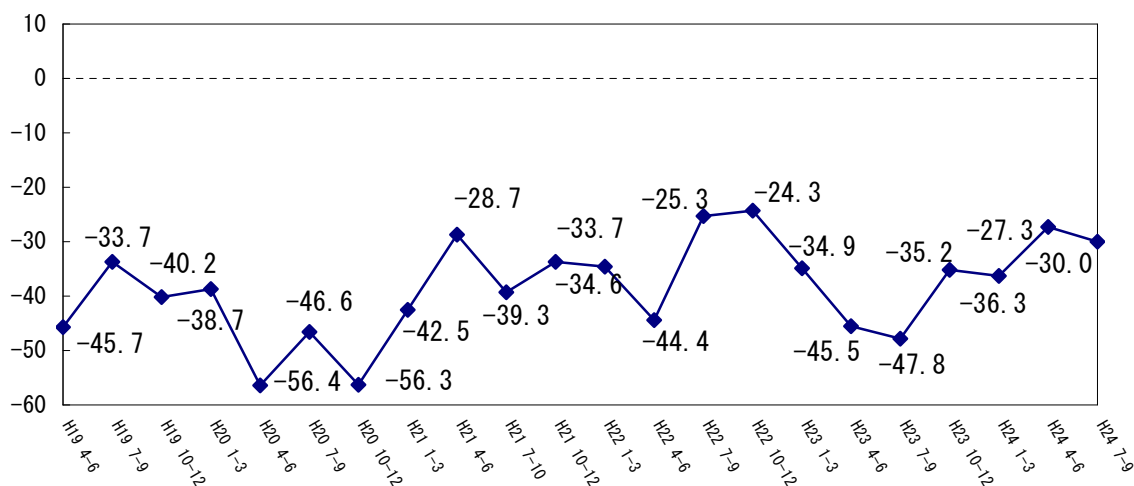
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の採算水準）

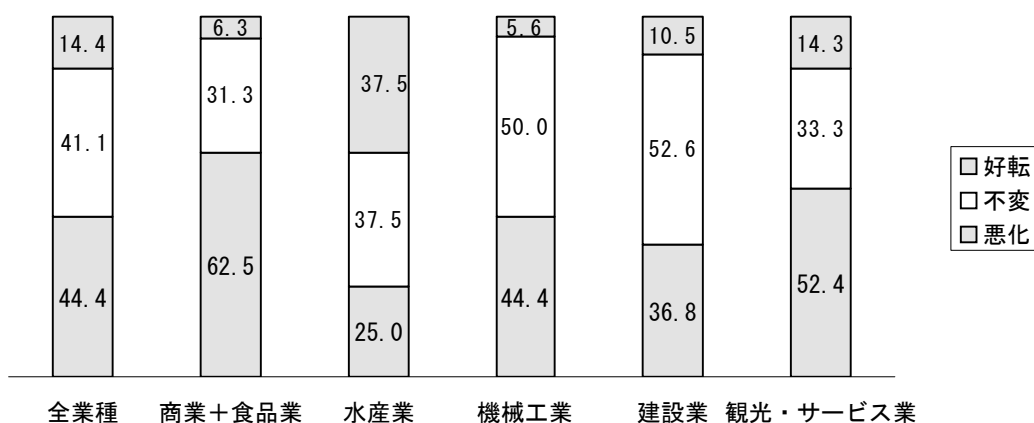
### 採算推移 （全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



### 今期の採算（前年同期比）



全業種平均で DI 値△30.0〔前年調査時（平成 23 年 7～9 月期△47.8）より 17.8 ポイント改善〕

〔部会別 DI 値〕  
 商業・食品業〔前年△36.8→△56.3〕、水産業〔前年△41.2→12.5〕  
 機械工業〔前年△61.1→△38.9〕、建設業〔前年△44.4→△26.3〕  
 観光・サービス業〔前年△55.6→△38.1〕



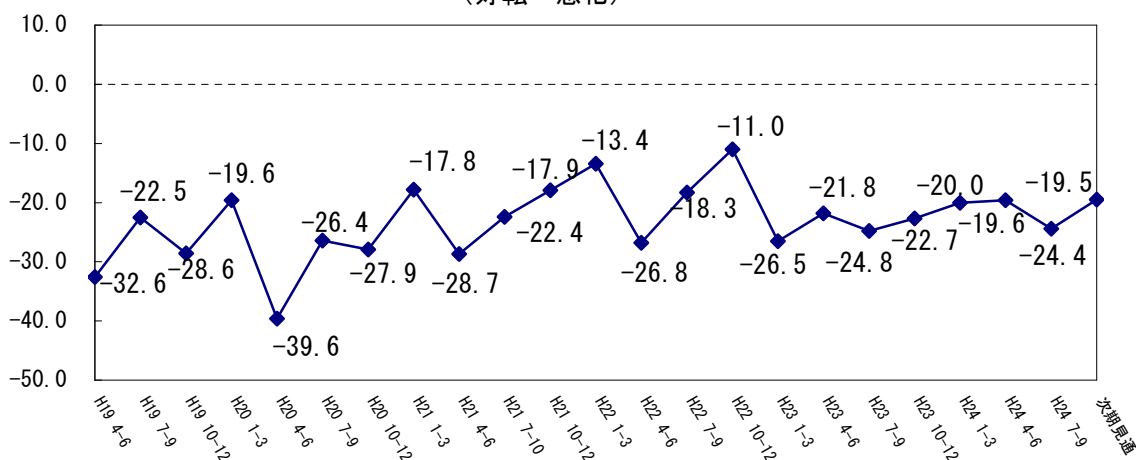
### (3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

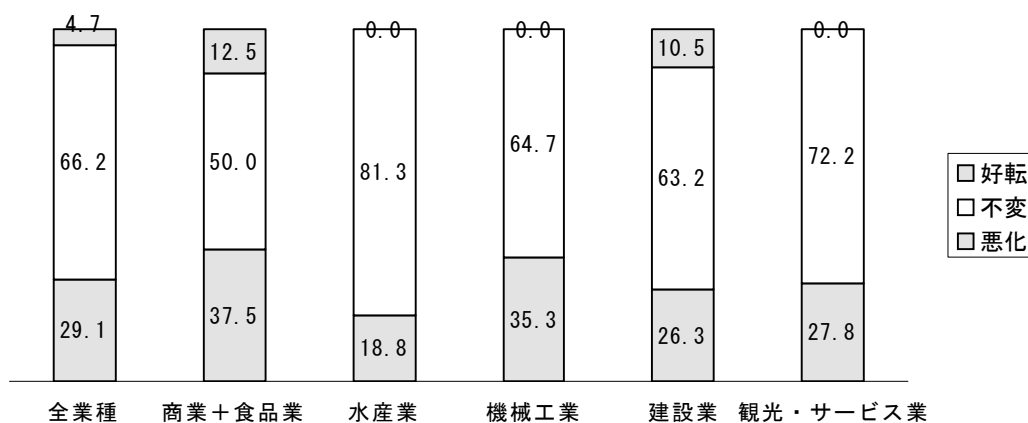
## 今期の資金繰り （全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



## 今期の資金繰り（前年同期比）



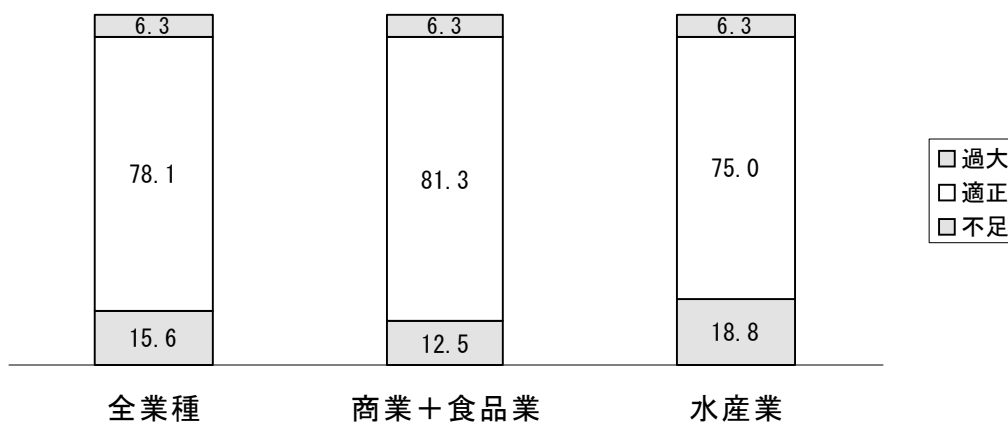
全業種平均で DI 値  $\Delta 24.4$  [前回調査時（平成 23 年 7～9 月期  $\Delta 24.8$ ）より 0.4 ポイント改善]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年  $\Delta 21.1 \rightarrow \Delta 25.0$ ]、水産業 [前年  $\Delta 23.5 \rightarrow \Delta 18.8$ ]  
 機械工業 [前年  $\Delta 38.9 \rightarrow \Delta 35.3$ ]、建設業 [前年  $\Delta 11.1 \rightarrow \Delta 15.8$ ]  
 観光・サービス業 [前年  $\Delta 29.4 \rightarrow \Delta 27.8$ ]

#### (4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



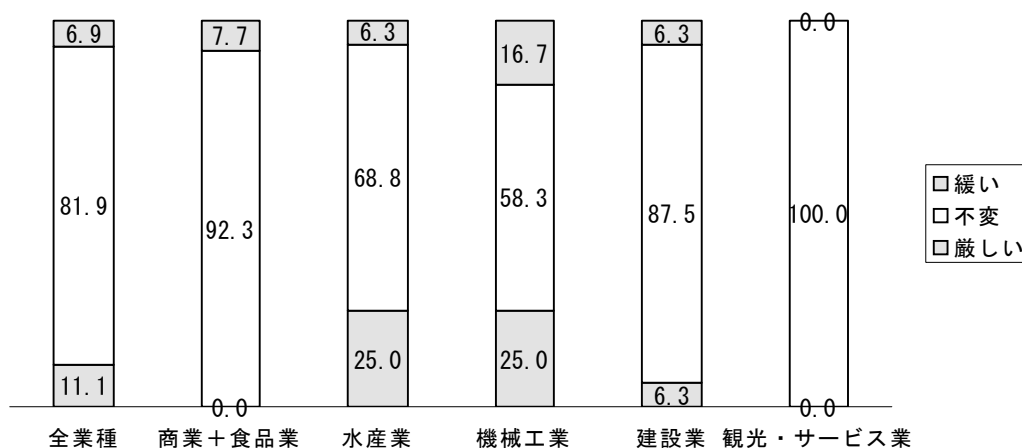
全業種平均でDI値 $\Delta 9.3$ 〔前回調査時（平成 22 年 4～6 月期 $\Delta 2.7$ ）より 6.6 ポイント在庫減少〕

【部会別DI値】 商業・食品業〔前年 15.8 $\rightarrow\Delta 6.3$ 〕、水産業〔前年 $\Delta 23.5\rightarrow\Delta 12.5$ 〕

#### (5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 23 年 7 月～9 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

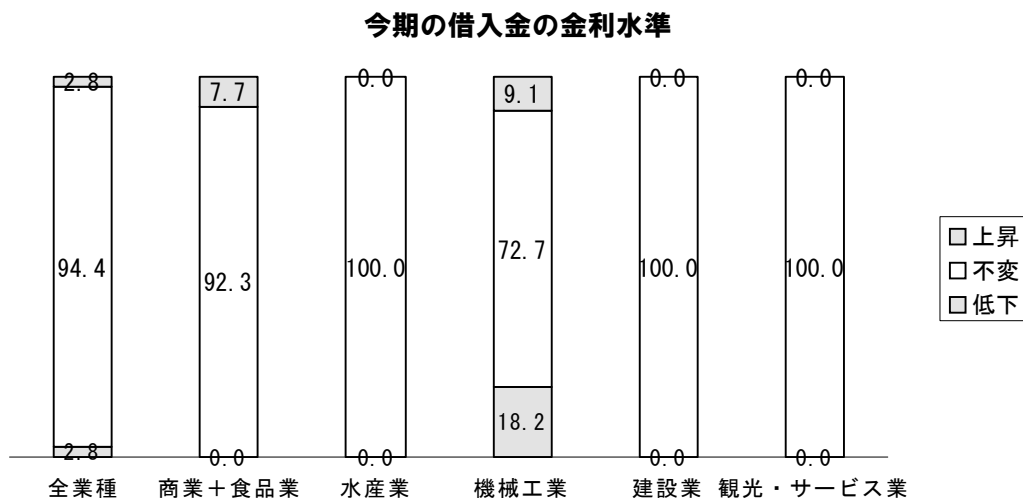
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で $\Delta 4.2$ ポイント。商業食品業 7.7 水産業 $\Delta 18.8$  機械工業 $\Delta 8.3$  建設業 $\Delta 0.0$  観光サービス業諸業 $\Delta 0.0$

## (6) 今期の借入金の金利水準

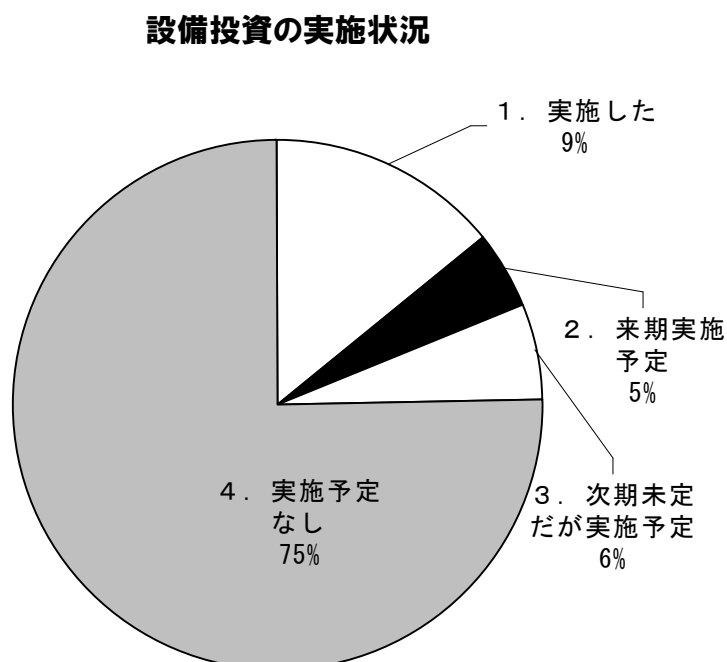
【前年同期比】（平成23年7月～9月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で $\Delta 0.0$ 。商業食品業 7.7 水産業 $\Delta 0.0$  機械工業 $\Delta 9.1$  建設業 $\Delta 0.0$  観光サービス諸業 $\Delta 0.0$

## (7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

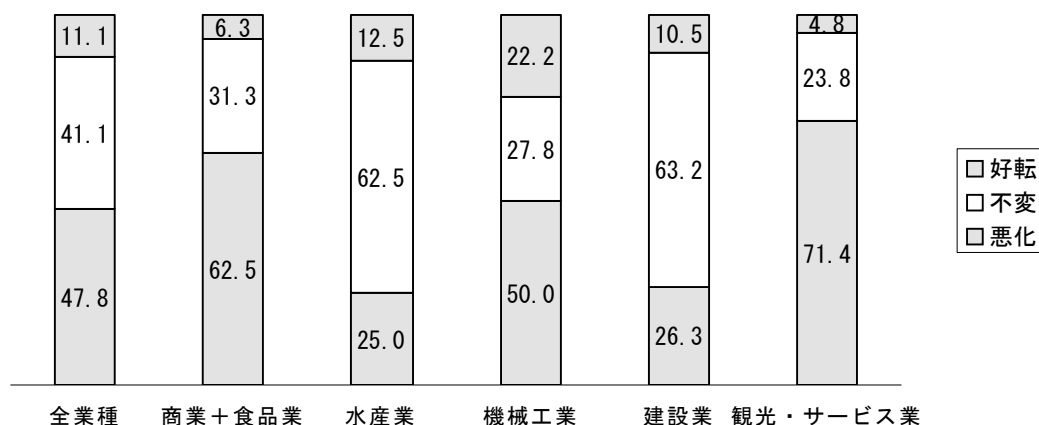


### 3. 来期の見通し

#### (1) 来期の業況

【今期比】（平成 24 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

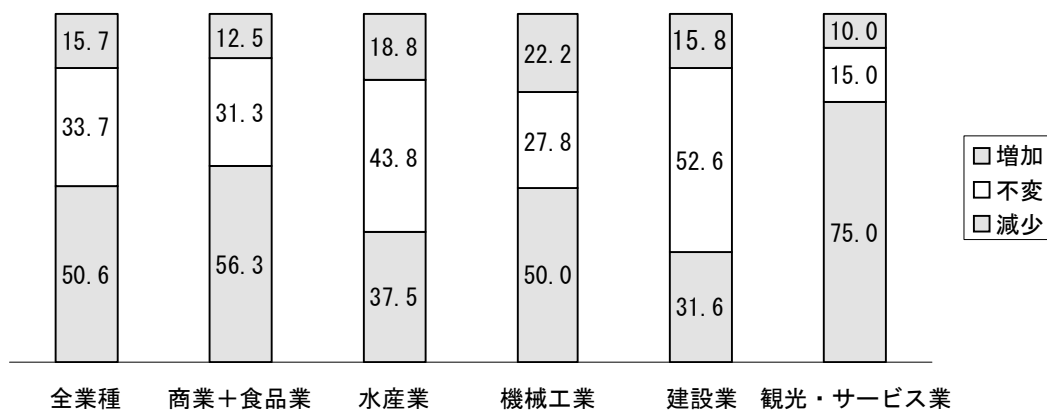


全業種平均 DI 値△36.7 [今期の業況（前年同期比△26.6）より 10.1 ポイント悪化の見通し]

#### (2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 24 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

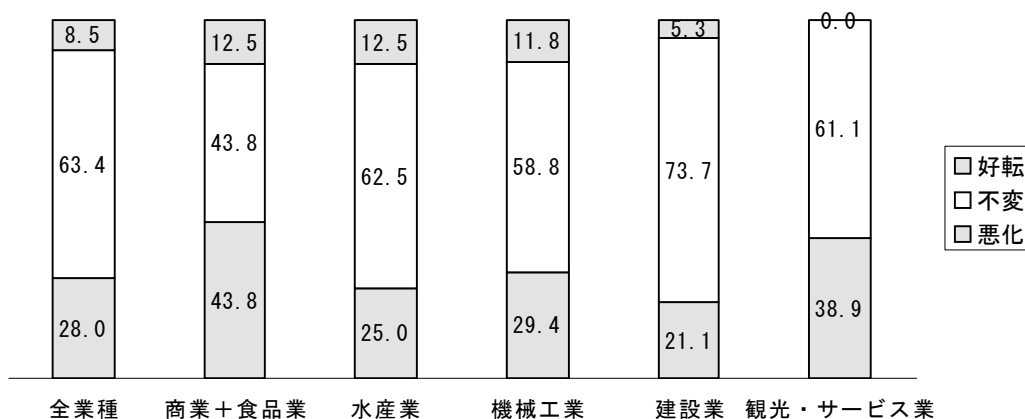


全業種平均 DI 値△34.9 [今期の売上高・生産高（前年同期比△35.5）より 0.6 ポイント改善の見通し]

### (3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 24 年 7 月～9 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

#### 次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値  $\Delta 19.5$  [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 24.4$ ）より 4.9 ポイント改善の見通し]

## Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	$\Delta 26.6$	$\Delta 50.0$	12.5	$\Delta 27.8$	$\Delta 26.3$	$\Delta 38.1$
	来期見通し	$\Delta 36.7$	$\Delta 56.3$	$\Delta 12.5$	$\Delta 27.8$	$\Delta 15.8$	$\Delta 66.7$
売上 D・I	今期実績	$\Delta 35.5$	$\Delta 68.8$	12.5	$\Delta 55.6$	$\Delta 31.6$	$\Delta 33.3$
	来期見通し	$\Delta 34.9$	$\Delta 43.8$	$\Delta 18.8$	$\Delta 27.8$	$\Delta 15.8$	$\Delta 65.0$
在庫 D・I	今期実績	$\Delta 9.3$	$\Delta 6.3$	$\Delta 12.5$	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	$\Delta 30.0$	$\Delta 56.3$	12.5	$\Delta 38.9$	$\Delta 26.3$	$\Delta 38.1$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	$\Delta 24.4$	$\Delta 25.0$	$\Delta 18.8$	$\Delta 35.3$	$\Delta 15.8$	$\Delta 27.8$
	来期見通し	$\Delta 19.5$	$\Delta 31.3$	$\Delta 12.5$	$\Delta 17.6$	$\Delta 15.8$	$\Delta 38.9$
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	$\Delta 4.2$	7.7	$\Delta 18.8$	$\Delta 8.3$	$\Delta 0.0$	$\Delta 0.0$
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	$\Delta 0.0$	7.7	$\Delta 0.0$	$\Delta 9.1$	$\Delta 0.0$	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準 D・I 値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。